

令和２年度 第１回熊本市健全な森づくり推進計画（仮称）策定委員会 議事概要

日時：令和２年（２０２０年）８月２０日（木）午後２時～４時

場所：熊本市役所議会棟２階 議運・理事会室

委員出席者：田口浩継、佐藤宣子（オンライン参加）、陣川雅樹、井口真輝、笹木征道、
井野道幸、本田浩二、甲斐原巖、柿本美樹枝

委員欠席者：高宮正之（別紙にて意見提出）

- １．開会
- ２．挨拶
- ３．委員紹介および委嘱状交付
- ４．会長・副会長の選出
- ５．議事

熊本市健全な森づくり推進計画（仮称）について

（１）概要説明、スケジュール

事務局）

資料１を説明。

田口会長）

計画策定の概要およびスケジュールについて意見・質問があればお願いしたい。

（質問・意見なし）

田口会長）

この計画に則って進めていただきたい。

（２）熊本市健全な森づくり推進計画（仮称）（たたき台）

田口会長）

資料２「熊本市健全な森づくり推進計画（仮称）（たたき台）」について、内容が多岐にわたるので項目ごとに審議を進めていく。「Ⅱ．森林をめぐる情勢と熊本市の森林の状況」から説明をお願いする。

事務局)

事前送付の資料からの修正・追記等は赤字で示している。

4～19 ページを説明。

田口会長)

審議に入る前に確認。資料2の冊子は印刷して活用されるのか。Webでの閲覧のみか。

事務局)

最終的には製本するとともにホームページ上での公開を行う。

田口会長)

公開対象は、専門性をもたない一般市民の方に向けて検討されているという理解で良いか。

事務局)

専門用語も多く分かりにくい部分も多くなってくるので、本文中に注釈を入れてはいるが、そのほかに用語集のとりまとめを予定している。

田口会長)

審議に入る。

まず、4ページ「1 森林をめぐる情勢」と5～6ページ「2 森林環境税及び森林環境譲与税と新たな森林経営管理制度」について、質問・意見があれば願います。

井口委員)

4ページのこれまでの森林をめぐる情勢は、今後の方策を考えるうえで基盤となるので、きちんと整理認識をしておくべき。事実誤認が含まれている。

田口会長)

個別に事務局へ加筆・修正のための資料等の提示をお願いします。

佐藤副会長)

森林環境譲与税が契機になって、市町村が独自に森林政策を考えなければならなくなったという経緯の説明があったが、森林環境譲与税が市町村に譲与されるにあたっては、5ページの図2に示されているように、私有林人工林面積、林業就業者数、人口によって按分されているということがしっかり認識された方が良い。熊本市の場合、林業就業者数はほとんどないので、私有林人工林面積と人口によって決まること、特に熊本市は人口割の影響が大きいことをはじめに認識していた方が良い。

田口会長)

その部分が明確になるように図等で工夫をしていただきたい。

事務局)

個別にそれぞれの割合がどれだけあるのか、熊本市の場合はどうなのか、を表などで示すようにする。

田口会長)

7～15 ページ「3 熊本市における森林の変遷」について、質問・意見があればお願いする。
写真がもっと見やすくなると良いと思う。

甲斐原委員)

NPO 法人コロボックル・プロジェクトで西区の金峰山を中心に活動をしている。

9 ページの西区は、自身に馴染みのある地域であり、写真のとおり荒廃森林は危険であるし竹林変遷の写真も分かりやすくて良い。

12 ページからの「コラム2 森林が有する多面的機能」について、イラストがあると分かりやすい。一般市民向けの文書なので、文字だけで説明されている機能についてもイラストをつけて欲しい。

事務局)

林野庁や熊本県の資料を活用して資料作成を行いたい。

井口委員)

7 ページ図4 について、「間伐などの整備が行われていない」との記述があるが、国有林の整備は国が直轄事業として計画的に行うものであり、基本的に整備不足はないと認識している。施業履歴を確認したところ、育林の過程として現在は「間伐を実施していない」のが正確なところであり、決して手入れ不足ではない。誤解をまねかない表現の工夫が必要である。

「拡大造林」という用語は、原野などの林地でない場所に植樹をする際や天然林を針葉樹化する際の表現である。国有林の施業履歴からすると後者であり、本文中の「森林が拡大している」という表現は適切ではないと思われる。

事務局)

九州森林管理局よりご指導いただきたい。

佐藤副会長)

熊本市の場合には、戦前から戦後にかけては人工造林化が進んだということをもって、

「拡大造林」という状況が進行したのではないかとと思われるが、履歴をたどって森林の成立をチェックしたうえで掲載すべきである。

陣川委員)

一般の方には、コラムが最も、見やすいし理解しやすいのでイラストを使うことは必須である。文章がかなり難しいのでかみ砕いた表現をすべき。特に 12 ページ下段「老齢段階の森林にある～」などは何を言っているのかわからない。

全体を通して、表現を検討いただきたい。

田口会長)

できるだけ専門用語を避けながら伝わりやすい文章で、分量が多くなっても分かりやすくした方がより良いものになっていく。

柿本委員)

市民の立場で計画全体に意見したい。

前半は日本の課題、後半は熊本市の話で構成され、市内を 5 地区に分けることが特徴かと思うが、どこに熊本らしさがあるのか、一般的な計画に見える。熊本市の地下水、江津湖などでの「水育」との関連が見えない。山と水を繋ぐ「森育」まで計画を広げたい。

後半は、市民が森の恵みを受け取る側としてだけ表現されており、市民としての能動的な行動・態度について記載がない。市民の出番がどこか分らない。

田口会長)

「熊本らしさ」を取り入れていただきたいということ、「森育」という視点、森林環境譲与税を理解したうえで市民としてどういう行動・態度が求められるのかまで導いていけるとさらに良いと感じた。

笹木委員)

県の立場を超えた部分もあるが、当方の感想も含めて意見を述べる。

全体の構成が、わが国に関する部分が厚く、熊本市の部分が薄い。また、人工林の記載が多く天然林の記載が少ないと感じた。16 ページを見ると熊本市は天然林が多いのが特徴である。市内では人工林も一部に造成されてきた程度であると考えられるので、この一部の人工林をもって、森林が「荒廃」していると言えるまでの状況なのか疑念がある。天然林と人工林を両軸でバランスをとりながら保全の話をして欲しい。

熊本市は山間部のいわゆる林業地帯でなく、都市近郊林といった特徴があると考え。素案では無理に林業を当てはめている印象もあるので、都市部なりの特性を活かしていく方向で記述すべきではないか。

人工林が整備されない理由の一つに所有形態がある。所有形態が分かると森林経営管理

制度の活用など整備計画の方向性も変わってくるので、森林の所有形態についての記載もすべきと考える。

本田委員)

17 ページには保安林の位置づけの記述もあった方が良い。

柿本委員)

7 ページの西区の変遷図について。西区に住む市民として、この図内には土砂災害危険区域があり地域住民は豪雨時には山崩れの心配をしている。この図にハザードマップを重ねて示して欲しい。自分たちの住まいと川と森と災害の関係に興味を持つことになる。土砂災害危険区域と重ねた資料を後半でもいいので記載して欲しい。

田口会長)

市民の方に身近に感じていただくためには、そのような情報提供も必要かもしれない。

事務局)

水については、水源涵養林を一部他市町村でも実施しているので整理して記載したい。

市民との連携については、放置竹林対策や遊歩道整備などを記載したい。

天然林と人工林の話については、天然林の話も書き込めるようにしたい。保安林、国有林も含めて概要を整理して後段の対策につながるよう検討する。

ハザードマップの件は、情報量が多いのでどこまでできるのか難しい面もあるが、検討する。

田口会長)

後半の審議について、この計画の方向性に係わることや全体構成についてのご意見をいただきたい。表現等の細かい話はメールにて事務局へ連絡いただくようお願いする。

16～19 ページに質問・意見はあるか。

(質問・意見なし)

田口会長)

「Ⅲ．熊本市の森づくりの方向性と推進方策」から「Ⅴ．推進体制」までの説明をお願いする。

事務局)

20～34 ページを説明。

21～22 ページの 5 つの地区区分は 16 ページの図 14 を参照いただきたい。

22 ページ⑤金比羅山については、もう少し整理して追記予定。

23 ページのコラム4について、本日欠席の高宮委員からご意見も踏まえて一般市民の方のご理解に配慮して整理していく予定。

24～26 ページのそれぞれの機能は前半のコラムを参照いただきたい。

田口会長)

まず20 ページ「1 森づくりの方向性」について質問・意見をお願いしたい。

笹木委員)

天然林が多い特徴もあるので、天然林をどう保全するかを記載してはどうか。

なお、本計画は、法定計画である「熊本市森林整備計画」と一体のものとして作成することであるが、森林整備計画は民有林のみを対象とする計画である。今回の推進計画は、国有林も含むものとするかは整理しておいた方がよい。

また、各地区の記載について、具体的にどのような地区なのかを記載して欲しい。熊本市は政令指定都市の規模にある都市であるが、森があることが街の魅力につながっていると考える。各地区においては、土地利用が天然林なのか人工林なのか、整備が遅れているところがどれくらいあるのか、地域でどのような利用がされているか、所有者が誰なのかを整理すれば、各地区の整備の方向が明らかになるのではないかな。

事務局)

天然林は、特に計画対象になる森林については記載したい。

国有林、県有林を計画対象にすることはできないと考えている。

政令指定都市の中でも熊本市は特殊で、都市部に一定の森を有している。森に親しんでいただくこと、そのためのターゲット、そのような森にするにはどうするのかを明示したい。天然林を含めての記載を検討する。

陣川委員)

森林総合研究所の場所は、立田山地区の真ん中にある。立田山は、いわゆる針葉樹の人工林ではないので天然林として区分けされているようだが、戦後に人工的に植えられた木が70年を経て大きな木になっている。「憩の森」として、森林総合研究所の実験林も観察コースになっている。市として「街のなかにある山」という認識にしなければならないと思うので、天然林だから放置とはならない。一般の方が入ってくるので風・雨の被害時の整備は必要。お金をかけて整備をしないとレクリエーションや木育・森育などの活動もできない。山間地域の天然林とは違う考え方で、予算内でどう実施していくか特色を出していくべきではないかと思う。

事務局)

立田山は 2022 年の都市緑化フェアの会場になるので遊歩道を整備することとする。

市として取り組む内容、森林環境譲与税を活用する内容を整理したい。

鳥獣害（イノシシ）も対応が必要。

市民に親しんでいただく森林として立田山は重要であり、これらをあわせて記述する。

甲斐原委員)

各地区の特徴について、それぞれの機能を含めた里山の特徴、市民がどのような親しみ方をしているのか、市民団体が団体として具体的にどのように取り組んでいるのか、現状を把握したうえで、多様性のある森づくりに向けて市民団体がどう具体的に取り組んでいくのか、市は市民団体にどうかかわっていくのかを記載して欲しい。コラムの機能と各地区の重点取組が分かりにくい。

佐藤副会長)

3 点意見を述べたい。

1 点目は、天然林の保全について。里山を守るためには、照葉樹・天然林にも手を入れる必要がある。薪の生産活動なども含めて広葉樹に手を入れていく位置づけが必要と思う。

2 点目は、担い手対策があまり見えないし、熊本市独自の担い手育成をもう少し練った方がよい。例えば、熊本市はミカン生産が盛んであり、そこには山がある。ミカン農家が山の整備をする仕組みがあると、単に「育成します」ではない具体的な議論ができるのではないと思う。

3 点目に、市民の位置づけが「恩恵を受ける側」という記載になってしまっている。森に積極的に係わることで森を豊かにしていくという内容が欲しい。協定を結んでいる上流地域の木材を活用することは、温暖化対策でもあり、室内環境改善にもつながる。木育も含めて、市民が能動的に関われるような取組の提案ができると、より身近な計画になると思う。

田口会長)

市民の位置づけについては、甲斐原委員の発言にあった市民団体の連携も含まれるかと思う。

事務局)

市民団体の取組については、具体的に記載したい。

里山の話は、より良い森林にするための活動の記述を検討する。

担い手については、ミカン農家は経営規模拡大傾向なので自伐は難しい。農業側の事情も踏まえて検討したい。

市民の方の位置づけとしては、森の守り手、木材活用の主体であることを、木育や森林環境教育の欄に追記できないか検討したい。

井口委員)

4 点意見したい。

1 点目、20 ページで森づくりの方向性を示すにあたり、熊本市は多くの住民を抱え、森林への期待が様々であると思われるので、表現ぶりのことではあるが「多様な森づくり」というワードを使うのが良いのではないか。

2 点目は、今後の方策の示し方。21～22 ページに地区ごとに現状が整理されているが、目指す姿と方策についても地区ごとに示せないか。その際、定性的な記述だけではなく定量的に森林の姿を地区ごとに描くと地元の方々に身近になると思う。例えば、現在、50 年後、100 年後の単層林、複層林、天然林の内訳など。

3 点目は、目標を掲げたとしても森林所有者の同意がないと手を入れられないので、所有者の経済的負担が少なくなるような方策の紹介や検討をしてはどうか。

4 点目は、森林の誘導にあたって、森林経営管理制度をうまく使えないか。

事務局)

「多様な森づくり」については、そのように対応したい。

定量的な目標数値は工夫する。

3 点目と 4 点目は、森林経営管理制度も含めて施策的な部分であるが、市で検討中の事業もあり、経営と切り離れた管理もあるので、整理して表現したい。補助事業についても資料編やガイドブックになるかもしれないが紹介できるよう検討したい。

柿本委員)

5 地区に分ける場合、地区ごとにまちづくり懇話会と連携し、各地域での特徴をもっと出していくべきでは。34 ページの推進体制には、ボランティア団体「等」に含まれると思うが各地区のまちづくり懇話会を入れて欲しい。各地区の特徴を思いっきり出していくことは市民としてワクワクする。

市民はどう参加していくか、参加する場所はどこなのか、「市民参加」の記載がない。間伐材などの木材利用には小学校等との連携も考えられる。将来を担う子ども達との関わりについて及び、子ども達にどのような森を残していくのか長期的なビジョンの記載が欲しい。

事務局)

「市民との協働の森づくり」を 32 ページに記載している。放置竹林対策をまちづくりセンターと取り組んでいる。34 ページの推進体制には「等」にまちづくりセンターも含むので整理して表現したい。

それぞれの地区の整備にはまちづくりセンターも関わっている。例えば、雁回山の遊歩道整備は富合地区や南区のまちづくりセンターとも協働しているので表現したい。

木育や森林教育についてももう少し記述したい。

市民参加の場所については、住んでいる地域だけでなく、好きな地域で活動できるような記載に整理したい。

田口会長)

21～26 ページについて質問・意見はあるか。

柿本委員)

25 ページ水源涵養機能が天然林だけにあるような記載になっているので、市民に誤解のないような表現に見直していただきたい。

甲斐原委員)

地域づくりや団体に対してどのようにお金を使ってどのように発展させていくのか、19 ページ図 17 のような表現が欲しい。現状と将来を描ければ地区ごとの特徴がでると思う。

井野委員)

19 ページ森林・山村多面的機能発揮対策交付金について事務局として説明。

行政側が目標値を決めるものではなく、市民が自分たちでこうしたいと思う森づくりを支援する資金である。これを利用して理想の森づくりをしてもらえば市民主体の方が長く続く取組になる。

本田委員)

県民総参加の森づくりに取り組んでいる。毎年災害が発生しているなかで、熊本市民は「森は危険だ」という印象を抱いていると感じる。山は危険、と思われたいような表現、示し方を意識して欲しい。

田口会長)

28 ページ(3)①あたりに、「森には気軽に入って行ける」イメージの記載があるといい。

田口会長)

27～31 ページについて質問・意見はあるか。

陣川委員)

27～28 ページへの意見。担い手育成、民間事業者の育成や労働力の確保について、熊本県の林業大学校と連携して卒業生(プロ)を取り入れることができないか、市と県で検討していただければと思う。

事務局)

放置竹林対策で民間企業に入ってもらっているので今後も連携したい。

林業大学校については、市内に事業体がいないと卒業生の受け入れができないので県との連携も検討する。

田口会長)

異業種で自社の裏山を自ら整備するという話も聞く。そのような方たちへの支援もできればいいと思う。

井野委員)

放置竹林の話だが、250ha の整備が進んでいるが再び荒廃しないようにタケノコ生産を提案した。10 月 15 日には放置竹林からメンマをブランド化した実績のある「糸島メンマ」の講習会を計画している。市民にも多く参加してもらいたい。

本田委員)

21 ページ金峰山少年自然の家は震災以降 3 年ほど閉鎖しているので記載に違和感がある。

河野農政部長)

教育委員会で整備の方向性について検討しているが、今後の方針はまだ決定していない。

事務局)

これまでの事実関係として記述している。

甲斐原委員)

学校林が気になっている。子供たちが身近な里山に親しむ学校林が放置され荒れている。山だけ森だけではなく、生きもの、ヒト、生業、産業の視点を現状として整理できると分かりやすいのではないか。

みちくさ館、森林学習館、金峰山少年自然の家を拠点としたモデルとして森づくりにどのように位置づけるのか示して欲しい。

田口会長)

32～33 ページで質問・意見はあるか。

柿本委員)

間伐材のチップを用いた木質アスファルトの舗道という新技術を森とまちと暮らしをつなぐアイデアとして提案したい。

笹木委員)

森林環境譲与税に関し、熊本市は人口が多く、人口割で譲与額が大きくなっている。譲与税の使途に関し、山村では森林整備が中心になるところであるが、都市部は木材需要地としての側面もあるので、熊本市では譲与税を用いた木材需要の掘り起こしにも引き続き取り組んでもらえるとありがたい。

田口会長)

34 ページに質問・意見はあるか。

(質問・意見なし)

田口会長)

全体を通して佐藤副会長から意見をお願いします。

佐藤副会長)

積極的な発言が多く素晴らしいと思う。熊本市らしい森のひとつとして、気候変動の緩和という観点から、暑さの厳しい熊本市の街の中に木を多く使って、もう一つの森をつくるという方向性を提案する。

田口会長)

全体を通して言い残しがあればをお願いします。

(発言なし)

田口会長)

今回は 10 月に審議する。8 月から 10 月の期間にたくさんの意見が出ることでより良い計画となるので、細かな話でも提案いただきたい。多様な立場の方が参加されており、多様性が活きる会だと確信する。市でも他課との連携に発展性があると期待する。

6. 閉会